

未熟児新生児科

2014年度総入院数は395人（前年比-7.5%）であった。入院の内訳は、在胎週数が未熟で出生体重の小さい超低出生体重児（出生体重1000g未満）が16人（前年度より+6人）、極低出生体重児（出生体重1000-1500g未満）が29名（前年度より+7人）、低出生体重児（出生体重2000-2500g未満）が75名であった。重症新生児仮死や遷延性肺高血圧症、胎便吸引症候群、重症新生児仮死などの出生体重2500g以上の児は229名で総入院数の58.0%であった。

総依頼件数は532件（-52件）であった。入院依頼をお断りしなければならない件数及び当センターの院内他科に入院依頼した件数は137（-20件）となった。

当センターの新生児搬送車による総出動件数は236件（-36件）であり、その内訳は、迎え搬送189件、三角搬送7件、分娩立ち会い54件、back transfer47件であった。

特殊治療としては一酸化窒素吸入療法14件、脳低温療法17件、脳平温療法24件、血液透析2件、人工換気療法191件（入院患児の48.4%）であった。

死亡数は8名で剖検率は62.5%であった。染色体異常などで死亡したのは0名で、それ以外で死亡したのは8名。重症新生児仮死児が5名、新生児肺高血圧症PPHN1名、両側緊張性気胸1名超低出生体重児1名であった。

（清水 正樹）

スタッフ（2014年在籍）

清水正樹（部長兼科長、日本小児科学会専門医・指導医、日本周産期・新生児学会専門医・指導医臨床研修指導医）

菅野啓一（医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医）

宮林 寛（医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医）

菅野雅美（医員、日本小児科学会専門医）

川畑 建（医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医）

櫻井裕子（医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医）

楡井 淳（医員、日本小児科学会専門医）

馬場俊輔（常勤的非常勤）石川 悟（常勤的非常勤）永井康平（常勤的非常勤）

今西利之（常勤的非常勤）西野智彦（後期研修医）西岡真樹子（後期研修医）